第九講・文学的文章⑤

◆心情の変化をとらえる

人間の気持ちは常に変化しています。物語文は人間をえがくものですから、読み取りの際に、心情の変化を追うことがとても大切になってきます。

(1) 場面の展開（てんかい）・状況（じょうきょう）の変化をおさえる

まずは、時間の経過にともなって場面がどのように動いて、登場人物の心情に変化をもたらすきっかけとなったできごと（人物どうしのやりとりや登場人物に対して起きた事件など）が起きたのかをおさえましょう。

(2) 場面の展開ごとの人物の心情をおさえる

心情を直接表したことば、情景、人物の言動などから、場面の展開ごとの人物の心情を考えます。

(3) 心情の変化を考える

(1)・(2)をふまえて、登場人物の気持ちの大きな流れと、その変わり目に何があったかを考えます。

・**最初の心情**

↓ 心情に変化をもたらすきっかけとなったできごと

・**変化したあとの心情**

物語文を読むときには、この手順に従（したが）って、登場人物の心情の流れと、その変わり目にどんなことが起こったかをとらえながら読み進めることが大切です。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学校二年生の信雄の家は、大阪の安治川沿いで食堂をやっていた。あるとき、信雄は、川のほとりで舟を家がわりにして住んでいる同じ年齢の喜一とその姉銀子と仲良くなった。信雄の父晋平は、子供たちを天神祭りに連れていくことになったが、祭りの当日、信雄の母が急に病気になり、晋平は行けなくなった。

信雄と喜一は仕方なく自分たちだけで、近くにある浄正橋の天神さんに行くことにした。

「あんまり遅うまで遊んでたらあかんでェ」

晋平は信雄と喜一の手に、数枚の硬貨を握らせた。

「銀子ちゃんは行けへんのん？」

信雄が二階に声をかけると、

「うん、うち行けへん」

しばらくして銀子の言葉が返ってきた。

①<u>二人は夕暮の道を駆け出した。</u>

近くといっても、信雄の家から浄正橋までは歩いて三十分近くもかかる距離であった。堂島川のほとりを上っていき、堂島大橋を渡って北へ歩いていくうちに、*1お囃子の音が大きく聞こえてきた。

大通りを曲がり、*2仕舞屋が軒を連ねる筋に入ると、陽の沈むのを待ちあぐねた子供たちが、道にうずくまってもう花火に火をつけている。酒臭いはっぴ姿の男が、同じ柄のはっぴを着た幼な子を肩に乗せて、ぶらりぶらりと神社に向かっている。そのあとを喜一と並んで歩きながら、にわかに大きくうねりだした祭り囃子に耳を傾けていると、信雄はなにやら急に心細くなってきた。

②<u>「僕、お金持って遊びに行くのん、初めてや」</u>

ときどき立ち停まると、喜一はそのたびに掌を開いて、晋平からもらった硬貨の数を確かめた。③<u>信雄は自分の金をそっくり喜一の掌に移した。</u>

「僕のんと合わしたら、何でも買えるで」

「そやなあ、あれ買えるかも知れへんなあ」

信雄も喜一も、火薬を詰めて飛ばすロケットのお

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

もちゃが欲しかったのである。恵比須神社の縁日でも売っていたから、きっと今夜も売っている筈であった。

天満宮のような巨大な祭りではなかったが、それでも商店街のはずれから境内への道まで*3露店がひしめきあっている。人通りも多くなり、スルメを焼く匂いと、露店の茣蓙の上で白い光を発している*4カーバイドの悪臭が、暗くなり始めた道にたちこめて、④信雄も喜一もだんだん祭り気分にうかれていった。

喜一は硬貨をポケットにしまい、信雄の手を握った。

「はぐれたらあかんで」

人混みを縫いながら、二人は露店を一軒一軒見て歩いた。

水飴屋の前に立ったとき、

「一杯だけ買うて、半分ずつ飲めへんか？」

と喜一が誘った。ロケットを買ってからにしようという信雄の言葉でしぶしぶその場を離れたが、こんどは焼きイカ屋の前でも同じことをせびった。飲み物や食べ物を売る店の前に来ると、喜一は必ず信雄の肘を引っぱって誘うのだった。

「きっちゃん、ロケット欲しいことないんか？」

喜一の手を振りほどくと、信雄は怒ったように言った。

「ロケットも欲しいけど、僕、いろんなもん食べてみたいわ」

⑤口をとがらせて、喜一は脛の虫さされのあとを強く掻きむしった。

（宮本輝『泥の河』）

＊1お囃子＝祭りをもりあげるための笛やたいこの音楽。
＊2仕舞屋＝商売をしていない住宅。
＊3露店＝出店。
＊4カーバイドの悪臭＝明かりとして燃やすカーバイドのいやなにおい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　――線①「二人は夕暮の道を駆け出した」とありますが、このときの二人の気持ちとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　暗くなるとこわいので、早く行こうとあせる気持ち
イ　銀子が行かないさびしさをふり切ろうとする気持ち
ウ　早くお祭りに行って遊びたいと思う気持ち
エ　暗い家から早く逃（に）げ出したいという気持ち

□

問二　――線②「僕、お金持って遊びに行くのん、初めてや」とありますが、このときの喜一の気持ちの説明として適当**でない**ものを次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　遊びに行くのが楽しくてどきどきしている。
イ　少し大人になったような気がして得意になっている。
ウ　お金をなくしはしないかと少し不安を感じている。
エ　もらったお金をどうしていいかわからずとまどっている。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　――線③「信雄は自分の金をそっくり喜一の掌に移した」とありますが、このことで喜一の気持ちはどうなりましたか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　自分の使えるお金が増えたので喜んだ。
イ　自分の責任が重くなったようで気持ちがしずんでいった。
ウ　買い物をすることがますます楽しみになってきた。
エ　信雄の行動の意図がわからず不安になった。

問四　――線④について、次の問いに答えなさい。

(1)　「だんだん祭り気分にうかれていった」とありますが、信雄はその前はどんな気分だったのですか。文中のことばを使って答えなさい。

(2)　二人を「だんだん祭り気分」にさせていったまわりの様子やことがらを次のうちから四つ選び、記号で答えなさい。

ア　スルメを焼く匂い
イ　ひしめきあっている露店
ウ　商店街のにぎわい
エ　前を歩くはっぴ姿の親子
オ　カーバイドの悪臭
カ　掌の中の硬貨
キ　ロケットのおもちゃ
ク　人通りの多さ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問五　――線⑤「口をとがらせて、喜一は脛の虫さされのあとを強く掻きむしった」という表現から、喜一のどんな様子がわかりますか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　信雄がいじわるをしていると思い、悲しんでいる。

イ　ロケットにこだわる信雄が正しいと、あきらめている。

ウ　信雄がおこったので、おどろいている。

エ　自分の意見が通らないので、不満に思っている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　文学的文章⑤

一題目

問一　ウ
問二　エ
問三　ウ
問四　(1)（例）心細い気分だった。
(2)　ア・イ・オ・ク　（順不同）
問五　エ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。